

## 会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度第2回行財政改革推進委員会
開 催 日 時	令和2年1月16日（木）10時から12時まで
開 催 場 所	市民交流センターおあしす セミナールーム2
出 席 委 員 氏 名	石阪督規委員長、小助川美穂副委員長、菊地純松委員
欠 席 委 員 氏 名	なし
担当課職員職氏名	政策室副室長兼主幹 荒川泰弘、政策室企画担当副主幹 油川誠 政策室企画担当主事 白石真由子、政策室企画担当主事 小林洵
会 議 次 第 及 び 会 議 の 公開又は非公開の別	1 開会 2 議事 （1）第5次よしかわ行財政改革大綱素案について 資料 第5次よしかわ行財政改革大綱素案 3 その他 4 閉会  すべて公開
非 公 開 の 理 由	なし
傍 聴 者 の 数	0名
会 議 資 料 の 名 称	次第、資料
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会 議 録 確 認 指 定 者	小助川副委員長、菊地委員
そ の 他 の 必 要 事 項	なし

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）	
1 開 会 事務局	<p>————— 《開 会》 —————</p> <p>ただ今より、令和元年度第2回行財政改革推進委員会を開会する。</p> <p>————— 《定足数確認（会議の成立）》 —————</p> <p>本日の出席状況は、出席委員3名であり、行財政改革推進委員会設置要綱第6条第2項の規定による定足数である過半数に達しているため、本日の委員会が成立していることを確認した。</p>
石阪委員長	<p>————— 《委員長挨拶》 —————</p> <p>今後、全体の流れとして、自治体のみ力で自治体運営を行うのではなく、民間の活力を使っていくことが重要である。吉川市は人口が増えているのでそういった面でも積極的に民間を使った事業を進めることができる。この行財政改革推進委員会においてもそういった視点を持って進めていきたい。</p>
事務局	<p>————— 《会議の公開・非公開の決定》 —————</p> <p>本日の会議は全て公開で行う。また、会議録の公開についても、会議録内の発言委員名を全て公開で行う。</p>
2 議 事 石阪委員長	<p>————— 《署名委員の指名》 —————</p> <p>本日の会議録の署名委員に、小助川副委員長と菊地委員の二人を指名。</p>
石阪委員長	<p>————— 《議事審議》 —————</p> <p><b>（1）第5次よしかわ行財政改革大綱素案について</b></p> <p>それでは、事務局より説明をいただく。ある程度の項目数ごとに説明いただき、その後質疑とする。</p>
事務局	<p>—事務局説明【I 吉川市の行財政改革の経緯、 II 吉川市の現状】（省略）—</p>
石阪委員長	<p>アウトソーシングについては何か動きはあったのか。</p>
事務局	<p>調整を図ったが、全般的に施設のメンテナンス、改修がネックとなっ てしまい、実現することができなかった。なお、市民交流センターおあ しすについては、指定管理者制度を導入している。</p>
石阪委員長	<p>直営は、コスト増大と硬直化を生んでしまう。民間が運営をすると開</p>

	館時間等によって市民の利便性が向上する事例もある。
菊地委員	おあしすは指定管理者の導入が早い時期に行われた。
事務局	その他、公立保育所2カ所については、障がい児保育の受け皿として運営を続ける決定をした。
石阪委員長	障がい児保育の受け皿として正しい選択であると思う。 また、施設管理は難しいが、運営は可能な団体はあると思う。運営のみを外部に委託することも有効である。 その他、放課後子供教室については、都内ではほとんどの学校で導入されており、地域との関わりも深まるため、有用な施策だと思う。
事務局	当市においても三輪野江小で週1回実施しているが、学童的な要素ではない。
石阪委員長	都内の事例では学童とは別に17時まで地域の人が預かってくれる。吉川市においても週2～3回程度実施できると理想的だが、実施するにあたっては学校との調整等が必要となり、課題も多くある。
事務局	当市は学童保育に力を入れており、学校敷地内で預かるということができる。
石阪委員長	学区選択制を導入している自治体では、学校選びに学童に重点を置かれることがある。こういったものは民間が得意な分野であるため、委託等による実施も検討が必要である。 吉川市の職員数について、平成26年度に最少となり再び増加傾向となっているがどのような理由か。
事務局	行財政改革の観点から採用を減らし、職員数を削減した時期があったが、人口増加等による行政ニーズの増加に伴い、再び採用人数を増やした。
石阪委員長	前回の繰り返しとなるが、プロモーションの部門等については、民間のノウハウを導入するためにも民間から採用を増やすべきである。
事務局	近年は民間企業経験者やプロスポーツ選手の採用も増やしている。
小助川副委員長	市内の方を採用するのではなく、市外も含めて優秀な人材を採用すべ

	<p>きである。</p>
事務局	<p>近年の新規採用職員については、約9割が市外在住の者である。 また、近年、公務員志望者の減少や他自治体との競合などにより採用状況が厳しいものとなっている。</p>
小助川副委員長	<p>吉川市を第一希望とした方に入庁してほしい気持ちがある。 他自治体との給与面での違いはあるのか。</p>
事務局	<p>給与の差についてはほとんどない。</p>
小助川副委員長	<p>いかに優秀な学生を採用するかという視点で、採用事務を行う必要がある。</p>
石阪委員長	<p>就職セミナーには吉川市として参加しているのか。</p>
事務局	<p>参加している。</p>
石阪委員長	<p>市長が参加すると参加学生が引き寄せられる。</p>
小助川副委員長	<p>例えば三郷市と吉川市の違いはなにか。</p>
事務局	<p>職員数が違うので職場の雰囲気が違う。吉川市の職員数だと知らない顔がないので調整がスムーズに行われていると感じる。</p>
石阪委員長	<p>財政面の資料を見ても吉川市は健全な状況であると思われるが、市債が増加しているところが少し気になる。</p>
小助川副委員長	<p>市債残高のピークはいつごろか</p>
事務局	<p>現在、吉川美南駅東口周辺の区画整理事業が終わるまで増える見込みである。</p>
小助川副委員長	<p>元金と利子の支払い方法によって市財政への影響が変わってくると聞いた。どのようにしているのか。</p>
事務局	<p>それぞれの借り入れごとに検討している。</p>
小助川副委員長	<p>安定的な収入として、企業からの収入を伸ばす必要がある。優良企業</p>

	を誘致するような取り組みが重要となってくる。
事務局	<p>吉川美南駅東口周辺区画整理事業については、地域とのつながりを大切にしながら、地域の魅力づくりについて「パートナー事業者」を募集し、意見交換や協議を重ねてきた。</p> <p>その後産業ゾーン事業者を募集し、1社が決定したところである。</p>
石阪委員長	<p>市民意識調査の結果については、クロス集計をかけて分析する必要がある。性別、世代によって変わってくると思う。それによって戦略の立て方が変わる。</p> <p>また、市への定住意向について、大学卒業後や定年退職前後などは転出意向が高く、市内への転入直後は定住意向が低いなどの傾向もみられるため、市民意識調査の詳細な分析が必要となる。</p> <p>定住意向の増加には地域に根差した活動を増やすことが重要と考える。</p>
菊地委員	<p>一般的に自治会等のイベントには参加したい方が多いが、イベントの主催側になるのは嫌がられることが多い。そういった方を取り込み、地域に根差した活動を行ってほしい。</p>
事務局	—事務局説明【Ⅲ 第5次よしかわ行財政改革大綱について】(省略)—
石阪委員長	<p>第4次行財政改革大綱との大きな変更点は、推進プランを別で策定するという点。また、特徴的な事は改革のスクリーンである。</p>
事務局	—事務局説明【Ⅳ 改革項目(大柱・中柱)】(省略)—
石阪委員長	<p>市内のペーパーレス化などのICT化はほどの程度進んでいるのか。</p>
事務局	<p>他自治体に比べて先進的であるとは言えない状況である。ペーパーレスなどは研究段階であり、その他の技術の活用については、実証実験に向けて検討を進めている段階である。</p>
石阪委員長	<p>全体的なICT化の推進というよりも、特定の分野に特化し、他自治体に比べて先進的な分野を確立することでもいいのではないかと。</p>
菊地委員	<p>ペーパーレス化について言うと、年齢によっては紙のものがあった方がいいかもしれない。くらしのガイドブックは出来が良く、必要なことが</p>

	<p>全て網羅されている。</p>
石阪委員長	<p>他自治体の事例では、コスト意識を持つために、冊子の最終ページに1冊あたりの製作費用を記載していることもある。</p>
事務局	<p>今回配布した「くらしのガイドブック」および「子育て応援ガイドブック」は広告料収入により製作がされており、当市の予算を投入していない。</p>
石阪委員長	<p>サイネージ等で広告を掲示し、広告収入を得ている自治体もあるが、吉川市は導入しているのか。</p>
事務局	<p>研究段階で留まっている。</p>
石阪委員長	<p>進まない理由はこういったことがあるのか。</p>
事務局	<p>市庁舎1階において、市政情報関連の映像を放映しているが、その情報とサイネージ等から流れる広告とが混在すると情報過多になることが危惧されており、担当部署と調整中である。</p>
石阪委員長	<p>事務処理中の座っている間にサイネージ等に広告が流れれば見る方は多いと思われる。</p> <p>無人バスやタクシーの運行もあと10年程度で実現の期待ができると聞いている。このことにより公共交通の充実も大いに期待できる。</p> <p>市民意識調査ではなぜバスの便の不便であるとの回答割合が高いのか。</p>
事務局	<p>多くの自治体においても同様と思われるが、市民のそれぞれのニーズに対しての評価となっており、自身が乗りたい時間や行きたい場所とアンマッチが不満との回答が多くなってしまっている要因と考えている。</p>
石阪委員長	<p>スポーツ施設についても市民の満足度が低いという回答になっている。これについては、こういった理由が考えられるか。</p>
事務局	<p>総合体育館までのアクセスが悪いことが原因かと考えている。</p>
小助川副委員長	<p>吉川市には公式な記録が取れる施設がない。大会等で市外の施設に行かなくてはいけない。そういった点もスポーツ施設の満足度が低い要因ではないか。</p>

菊地委員	スポーツ施設がより身近なものとなれば健康意識の高い高齢者の定住意向についても大きく変わるのではないか。
石阪委員長	施設の共同運営など周辺地域との連携についてはどのような状況か。
事務局	近隣5市1町の公共施設は相互利用できることとしているが、一部事務組合等で共同運営している公共施設はない。
石阪委員長	民間企業がグラウンドなどの施設を持っている可能性もある。そういったところを借りるというのも一つの手であると思われる。
小助川副委員長	市で運営している合宿施設はないのか。
事務局	吉川市ではそういった施設はない。熊谷では廃校を合宿施設にしているような例もある。
石阪委員長	地方において、人口が減少している地域が人を呼び込むために合宿所を運営している事例が多い。吉川市は地域間協定などのようなものはあるのか。
事務局	岩手県一関市と協定を結んでおり、マラソンイベントにおいて相互に選手団の受入れや、小学生の相互交流を実施している。
石阪委員長	体験学習などの関わりも可能であると思う。民間企業を巻き込んでも良いのではないか。民間企業もそのような事業をやってみたいところも多いと感じる。民間企業とのつながりから、企業誘致へとつながるきっかけとなる可能性もある。
小助川副委員長	企業も良い人材を欲しがっている。大学等があれば、良い人材を欲しがっている企業が集まることも考えられるが、吉川市についてはその部分が足りていない。
石阪委員長	一時は大学誘致が盛んな時期もあったが、大学も減少傾向なので、最近では専門大学誘致の方にシフトされている。
小助川副委員長	保育の専門学校が市内にあり、夏休みに保育のイベントを実施していた。こういったものが増えることが望ましい。

石阪委員長	調理の専門学校との連携も多くの事例がある。
石阪委員長	今回審議しているものは大綱となるので細かい部分についてはプランでの記載になると思うが、この内容を推進していくとなると、職員の労働時間が大きく増えてしまう恐れがある。行財政改革の大綱であるので、職員の労働時間を増やさず労働効率を向上させることも盛り込むべきであるとする。
菊地委員	サービス向上にともない、職員の負担が大きくなっている。なまずの里公園の木がいたずらで伐採された際に、道路公園課の職員が輪番で自宅待機していると聞いた。体育館など土日勤務の部署の職員が代わりに対応するなど、効率性を高めた運用をすることも必要だと感じる。
事務局	「Ⅳ 改革項目（大柱・中柱）」について、職員の業務効率化についての視点を取り入れたものへと修正する。
事務局	—事務局説明【Ⅴ 改革のスクリーン】（省略）—
石阪委員長	「3 持続可能性視点（SDGs 視点）」のキーワードについて、吉川市においては「人口減少」が必ずとも関連しているものではない。「人口減少への備え」とする方が適当である。 カタカナ語を多用しているので注釈は丁寧につけておくべき。 経営視点と持続可能性視点は矛盾する場合もあり、経営効率を考えながら、持続可能性を追及する工夫が必要となる。いずれにしても住民サービスが向上する取組みが求められる。
小助川副委員長	バックキャストの視点が理解しづらいように感じる。例え話を入れるとわかりやすくなる。
石阪委員長	注釈をよりわかりやすくすることが必要と感じる。ページ下部または巻末に注釈を入れ、特にカタカナ語に注意し、注釈の中で例を入れることはわかりやすい大綱の策定につながると思われる。 環境や貧困関連の施策がこのキーワードに関わってくると思われる。環境関連について吉川市の現状はどうか。ゴミ袋は有料であるのか。
事務局	有料ゴミ袋の設定はしていない。
石阪委員長	今後、全体の流れとして、ゴミ袋有料化の方向へ進んでいくと思われる

小助川副委員長	<p>る。ゴミ袋を有料化すると、ごみの減量化意識が育つと思われる。</p> <p>吉川市は粗大ごみを排出する際の手数料が安すぎる。</p>
石阪委員長	<p>ゴミを捨てる際の費用負担が少ないとゴミの減量化意識が育たない。</p>
菊地委員	<p>12月広報紙において、忘年会シーズンの食品ロスを減らす取り組みを周知しており、良い取り組みであると感じた。</p>
事務局	<p>こちらについてもSDGsに関連した取り組みとして食品ロスを減らす周知を行った。</p> <p>また、貧困対策についても、こどもの貧困対策推進計画を策定し、取り組みを行っているところである。</p>
石阪委員長	<p>SDGsと環境・貧困問題は関連が深く、今後市民との協働がより重要になってくる。私感として、吉川市は自治体が多くのことをカバーしすぎている部分がある。今後は市民や自治会、NPOとの協働を推進し、協働意識の醸成を図る必要がある。自分たちの地域は自分たちの手で。という自治意識が求められてくる。</p>
事務局	<p>将来的に行政サービスが追い付かなくなり、協働が必要な時代がやってくると思われる。</p>
石阪委員長	<p>構成の大枠としては、素案のとおりで問題はない。文章の内容については、職員の事務効率化の視点を盛り込むとともに、経営効率化のみだけでなく、持続可能性もあわせて追及し、住民サービスの向上に努めていく視点を加えることとする。修正については事務局に一任とする。</p>
<p>3 その他 事務局</p>	<p>————— 《そ の 他》 —————</p> <p>今後の流れ、次回開催について</p> <p>本日出された意見を踏まえながら第5次よしかわ行財政改革大綱原案を政策会議に付議をし、その後パブリックコメントを実施していく。パブリックコメントで出された意見を勘案し、再度この行財政改革推進委員会にお示しさせていただく。次回開催については、3月中旬を予定している。</p>
<p>4 閉 会 事務局</p>	<p>————— 《閉 会》 —————</p> <p>以上で本日の委員会の内容はすべて終了した。これをもって、令和元年度第2回行財政改革推進委員会を閉会する。</p>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和2年 2月 5日

署名委員 (小助川副委員長 自署) 署名委員 (菊地委員 自署)